

令和4（2022）年度 長岡大学シラバス

授業科目名 科目コード	ゼミナールⅡ前（SeminarⅡ） 2025021-058					担当教員	複数人		
科目区分	ゼミナール科目	必修・ 選択区分	必修	単位数	1	配当年次	2年次	開講期	前期
科目特性	知識定着・確認型AL／協同学修型AL								

① 授業のねらい・概要
<p>ホームルーム的役割を持ちつつ、1年次のゼミナールⅠ前・後で修得した知識と能力を土台として、(1)文章作成能力の向上、(2)適切な情報収集法の修得、(3)自己表現力の向上、を目標とする授業である。(1)(2)については、文章の書き方の基本、情報収集法の学習、レポート・レジュメと論文の作成法の基本、基本論理思考トレーニング等に取り組む。(3)については、ディスカッション、スピーチ、プレゼンテーション、などに取り組む。</p>
② ディプロマ・ポリシーとの関連
<p>専門的知識・技能を活用する能力／コミュニケーション能力／情報収集・分析力を育成する授業である。</p>
③ 授業の進め方・指示事項
<p>ゼミナールⅡ後における修了レポートの作成につながる授業として、レポート・論文作成能力の基礎を固めることが重要な目標となる授業である。</p>
④ 関連科目・履修しておくべき科目
<p>ゼミナールⅠ前、ゼミナールⅠ後</p>
⑤ 評価Aに対応する具体的な学習到達目標の目安
<p>(i) レポートの書き方の基本が十分に習得できている。 (ii) 修了レポート執筆要領の知識が十分に習得できている。 (iii) 修了レポート作成のための「知りたいこと」を見つける方法が十分に習得できている。</p>
⑥ テキスト（教科書）
<p>山田剛史・林創（2011）『大学生のためのリサーチリテラシー入門』ミネルヴァ書房、その他、必要に応じて資料・レジュメ等を配布する。</p>
⑦ 参考図書・指定図書
<p>佐藤智明・矢島彰・山本明志（編）（2014）『大学学びのことはじめ』ナカニシヤ出版、白井利明・高橋一郎（2008）『よくわかる卒論の書き方』ミネルヴァ書房など、授業において適宜紹介する。</p>

⑧ ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	S	A	B	C	D
	到達目標を越えたレベルを達成している	到達目標を達成している	到達目標達成にはやや努力を要する	到達目標達成には努力を要する	到達目標達成には相当の努力を要する
(i) レポートの書き方の基本の習得	レポートの書き方の基本が十分に習得できていて、授業で伝えた知識を何も見ずに、卓越した具体例をまじえて、レポートを作成することができる。	レポートの書き方の基本が十分に習得できていて、授業で伝えた知識を、何も見ずにレポートを作成することができる。	レポートの書き方の基本が不十分ながら習得できていて、授業で伝えた知識を、資料を見てレポートを作成することができる。	レポートの書き方の基本が不十分ながら習得できていて、授業で伝えた知識を、資料を見てかつ教員の支援をえてレポートを作成することができる。	レポートの書き方の基本が習得できておらず、授業で伝えた知識を、資料を見ても、教員の支援をえてもレポートを作成することができない。
(ii) 修了レポート執筆要領の知識の習得	修了レポート執筆要領の知識が十分に習得できていて、授業で伝えた知識を、何も見ずに卓越した具体例をまじえて、わかりやすく説明できる。	修了レポート執筆要領の知識が十分に習得できていて、授業で伝えた知識を、何も見ずに説明できる。	修了レポート執筆要領の知識が不十分ながら習得できていて、授業で伝えた知識を、資料を見て説明できる。	修了レポート執筆要領の知識が不十分ながら習得できていて、授業で伝えた知識を、資料を見てかつ教員の支援をえて説明できる。	修了レポート執筆要領の知識が習得できておらず、授業で伝えた知識を、資料を見ても教員の支援をえても説明できない。
(iii) 修了レポート作成のための「知りたいこと」を見つける方法の習得	修了レポート作成のための「知りたいこと」を見つける方法を十分に習得し、自分の「知りたいこと」を、卓越した見解もまじえて、調べることができる。	修了レポート作成のための「知りたいこと」を見つける方法を十分に習得し、自分の「知りたいこと」を調べることができる。	修了レポート作成のための「知りたいこと」を見つける方法を不十分ながら習得し、自分の「知りたいこと」を調べることができる。	修了レポート作成のための「知りたいこと」を見つける方法を不十分ながら習得し、自分の「知りたいこと」を、教員の支援をえて調べることができる。	修了レポート作成のための「知りたいこと」を見つける方法を習得できておらず、自分の「知りたいこと」を、教員の支援をえても調べることができない。

⑨ 学習の到達目標（評価項目）とその評価の方法、フィードバックの方法								
学習到達目標（評価項目）	試験	小テスト	課題（ミニレポート作成）	論文の構成・概要等（修了レポート方向性シート作	発表・実技	授業への参加・意欲	その他	合計

				成)				
総合評価割合			30%	30%	20%	20%		100%
(i) レポートの書き方の基本の習得			15%		10%	10%		35%
(ii) 修了レポート執筆要領の知識の習得			15%			5%		20%
(iii) 修了レポート作成のための「知りたいこと」を見つける方法の習得				30%	10%	5%		45%
フィードバックの方法	提出された課題、レジュメ、レポート等に助言をつけて返却する。							

⑩ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）

ゼミナールⅡ後における修了レポート（論文）作成に取り組むために必要な能力をしっかりと培うことが重要な目標になる。文章作成能力の向上のみならず、自己表現力全般と社会人基礎力の向上についても、全ゼミで歩調を合わせて取り組んでいく。

⑪ 授業計画と学習課題			
回数	授業の内容	授業外の学習課題と時間（分） （※特別な持参物）	
1	イントロダクション、スケジュール、学習内容の確認等	学習内容に関する復習	90分
2	レポートの書き方の基本の習得Ⅰ	学習内容に関する復習	90分
3	レポートの書き方の基本の習得Ⅱ	学習内容に関する復習	90分
4	レポートの書き方の基本の習得Ⅲ	学習内容に関する復習	90分
5	レポートの書き方の基本の習得Ⅳ	学習内容に関する復習	90分
6	情報探索トレーニング	学習内容に関する復習	90分
7	修了レポート執筆要領の知識の習得Ⅰ	学習内容に関する復習	90分
8	修了レポート執筆要領の知識の習得Ⅱ	学習内容に関する復習	90分
9	修了レポート執筆要領の知識の習得Ⅲ	学習内容に関する復習	90分

10	修了レポート執筆要領の知識の習得Ⅳ	学習内容に関する復習	90分
11	修了レポート執筆要領の知識の習得Ⅴ	学習内容に関する復習	90分
12	修了レポート執筆要領の知識の習得Ⅵ	学習内容に関する復習	90分
13	修了レポート作成のための「知りたいこと」を見つけるトレーニングⅠ	学習内容に関する復習	90分
14	修了レポート作成のための「知りたいこと」を見つけるトレーニングⅡ	学習内容に関する復習	90分
15	修了レポート作成のための「知りたいこと」を見つけるトレーニングⅢ	学習内容に関する復習	90分

⑫ アクティブラーニングについて			
知識定着・確認型 AL、協同学修型 AL を採用する。修了レポート作成への準備関連のトレーニングに関して、教員が多角的に修正点を指摘しレベルアップを促す。スピーチ、プレゼンテーション、討論においても、教員がコメントを行うことで能力向上を図る。			

※以下は該当者のみ記載する。

⑬ 実務経験のある教員による授業科目	
実務経験の概要	
実務経験と授業科目との関連性	